

内容評価基準（41 項目）

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施」の付加項目

A-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
A-1-(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		
A①	A-1-(1)-① 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
<p><コメント>養育・支援の基本が「子どもの意見をしっかり聴き、子どもを理解すること」であり、それを実践することが子どもの最善の利益につながるという職員間の共通理解のもと、処遇会議等で意見交換を図り、日々の養育・支援の検証をする機会が設けられている。日常的に養育・支援について相談できる体制も構築しているため、a評価とした。</p>		
A②	A-1-(1)-② 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
<p><コメント>情報提供等が必要な子どもについては、子どもの年齢や発達状況に配慮し、伝え方や内容については処遇会議等で協議した上で伝えている。さらに慎重を要する場合は児童相談所とも協議を行っている。しかし、事実を伝えたあとのフォローが十分でないため、b評価とした。</p>		
A-1-(2) 権利についての説明		
A③	A-1-(2)-① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
<p><コメント>年に2回、子ども達が意見を言えるように、また、理解しやすいように、年齢に配慮した子ども会で権利ノートの勉強会を行っている。この際は個別対応職員が説明を行っているが、他の職員も説明できるように園としての考え方を示した「権利ノート活用」を作成し、活用している。しかし、職員が権利ノートを学習する機会が設けられていないので、b評価とした。</p>		
A-1-(3) 他者の尊重		
A④	A-1-(3)-① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b
<p><コメント>トラブルの際には、個別に話を聞き気持ちを受け止めながらも、お互いの主張を職員が整理し、本人同士で解決できるよう支援している。また、ボーイスカウト活動で園内外の人たちと活動する機会もあり、認め合い、助け合い、協力し合い、感謝し合う態度を育てる支援を行っている。しかし、担当職員と子どもの個別の時間を確保しているが、十分とは言えない現状であり、b評価とした。</p>		

A-1-(4) 被措置児童等虐待対応		
A⑤	A-1-(4)-① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	c
<p><コメント>「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分等を行う仕組みがあるが、日常的に開催する会議や研修会では虐待や不適切対応の具体例をテーマとして取り上げてはいない。今後の新任職員研修のカリキュラムにおいてハラスメントの禁止等、体罰を必要としない援助技術の習得をテーマとして開催することを期待し、c評価とした。</p>		
A⑥	A-1-(4)-② 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
<p><コメント>不適切なかかわりを想定し、その原因や回避方法等の話し合いを職場内研修で実施するだけでなく、外部の研修会で得た情報を会議で復命し、新聞で虐待報道がなされた際には該当記事をコピーして研修会で活用するなどの取組ができていることから、a評価とした。</p>		
A⑦	A-1-(4)-③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
<p><コメント>対応マニュアルが整備されている。子ども達に権利ノートを利用して説明しており、食堂の入口には訴えのための方法等を掲示している。利用者アンケートでは、「いやなこと、困ったことを外部の人に話すこともできることを知っているか」という質問について、「知っている」と答えた児童が半数以上であった。これらのことから、対応が整備され、迅速かつ誠実に対応していると判断し、a評価とした。</p>		
A-1-(5) 思想や信教の自由の保障		
A⑧	A-1-(5)-① 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	b
<p><コメント>施設において子どもの思想や信教の自由は保障しているとしているが、施設の成り立ちの関係で、お参り等一部宗教に関連した行事がある。その意図については子ども達に十分説明をしているものの、思想や信教の自由を最大限に配慮し保障しているとは言えないと判断し、b評価とした。</p>		
A-1-(6) 子どもの意向や主体性への配慮		
A⑨	A-1-(6)-① 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
<p><コメント>入所前面接を担当した職員が入所準備を行い、子どもの分離に伴う不安等については可能な限り配慮をしているが、まだ工夫の余地があり十分とは言い難い。子どもや保護者等への対応についての手順を見直す取組も十分とは言い難く、b評価とした。</p>		
A⑩	A-1-(6)-② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a
<p><コメント>各子ども会からの意見は職員会議等で報告・検討され、その結果は必ず子ども達にフィードバックされるという仕組みが機能している。実際に子ども達の意見でルールが改善されたという実績もある。各子ども会から意見がよく出るということも、職員側が子ども達からの要望を十分に聞く姿勢と、実施困難な事項についてはその理由を説明する体制が構築されていると判断し、a評価とした。</p>		

A-1-(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活		
A⑪	A-1-(7)-① 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	b
<p><コメント>子どもへのヒアリングより、余暇は自由に過ごしていることが確認できた。施設全体で取り組む行事については子ども達にその主旨をしっかりと説明し、参加についての理解を得る努力をしている。また、自由参加の行事もある。図書や雑誌は子どもの年齢に応じて用意されており、子ども新聞の購読もある。しかし、テレビやビデオ等の数が子どもの数と年齢構成からすると十分ではない。以上のことを総合的に判断して、b評価とした。</p>		
A⑫	A-1-(7)-② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
<p><コメント>金銭管理については、担当職員が裁量権と責任を持って年齢に応じた対応を行い、金銭感覚が身につくよう支援している。高校3年生全員に、一定の生活費でゲストハウスを活用して生活をするプログラムを個々の子どもの能力にあった内容で実践している。年齢に応じた経済観念が身につくよう、具体的な体験をもとに習得させるための支援を行っているため、a評価とした。</p>		
A-1-(8) 継続性とアフターケア		
A⑬	A-1-(8)-① 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b
<p><コメント>家庭支援専門相談員を中心に、復帰後の生活の検討や復帰後の相談を受けることを子どもや保護者等に伝えている。復帰後、相談を受けたケースについては対応し、記録も整備しているが、標準化されたフォローアップ体制が整備されておらず、また遠方の自治体や児童相談所との連携が取れているとは言い難いため、b評価とした。</p>		
A⑭	A-1-(8)-② できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や、延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
<p><コメント>措置継続や措置延長を積極的に活用しており、実績もある。担当者を決めて記録も整備され、個々のニーズに沿った自立の目標に向けて養育に取り組んでいる。積極的な取組が行われているので、a評価とした。</p>		
A⑮	A-1-(8)-③ 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p><コメント>退所後の生活のイメージと対応が記載されている「スタート～旅立つ君へ～」という冊子を作成し活用している。退所児には園の行事である降誕会の案内を出して、交流する機会を設け、現在の生活ぶりや仕事ぶりを確認している。また、担当者を決めて定期的な電話連絡と支援便を送る等の支援にあたっている。一方、退所児の状況把握の記録は整備されておらず、園としては退所後の支援が十分ではなく、支援の余地があるという職員の思いもあることから、b評価とした。</p>		

A-2 養育・支援の質の確保

A-2-(1) 養育・支援の基本		
A⑯	A-2-(1)-① 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。	a
<p><コメント>子どもの内面理解に努め、信頼関係を築き受容的・支持的な態度で感情や言動をしっかりと受け止めることができている。施設での利用者アンケートは実施していないが、子ども達への聞き取りを2ヶ月に1回実施していることから、a評価とした。</p>		
A⑰	A-2-(1)-② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
<p><コメント>担当制により、子どもが職員に何でも相談できる環境を作り、一人ひとりの意見や欲求を把握し、一定の裁量権を持って柔軟に対応できる体制があるため、a評価とした。</p>		
A⑱	A-2-(1)-③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
<p><コメント>子どもへのヒアリングや利用者アンケートから、「話をよく聞いてくれる」「良いところをほめてくれる」「見守ってくれる」という意見が確認できた。また、子どもの自己肯定感を高めるような声かけをしている場面も確認できた。子どもを見守る姿勢を大切にされた養育・支援を行っていることから、a評価とした。</p>		
A⑲	A-2-(1)-④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<p><コメント>幼児の生活場면을独立させ、高年齢児からの刺激が少ない環境を確保したことや、発達段階に応じた図書や玩具、設備が用意されていることから、a評価とした。</p>		
A⑳	A-2-(1)-⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<p><コメント>職員の適切な言葉づかいや声掛けについては、保護者や実習生等の意見をもとに話し合いを行い、子ども達が穏やかな生活が営めるよう努めている。加えて、職員と一緒に外出や、ボーイスカウト活動により社会的ルールを習得する機会が保障されているため、a評価とした。</p>		
A-2-(2) 食生活		
A㉑	A-2-(2)-① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
<p><コメント>テーブルの上には、一輪挿しやランチョンマットがあり、食堂全体が明るく清潔に保たれ、落ち着いた雰囲気が感じられた。食事時間の柔軟な対応や外部者との食事会が企画・実施されるなど、食事を楽しむための多様な工夫が実践されているため、a評価とした。</p>		
A㉒	A-2-(2)-② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
<p><コメント>アレルギー体質の子どもへの食事には、皿に印をつける、お盆の形を変える等の工夫により、誤配防止を行っている。また、ヒアリングや書類、訪問調査で、子どもの嗜好や一人ひとりの健康状態に配慮した食事の提供がなされていることが確認できたため、a評価とした。</p>		

A ㉓	A-2-(2)-③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
<p><コメント>定期的に食育新聞を作成し、クイズ形式で子どもに食材や栄養等の情報提供を行い、食に関する知識を豊かにする支援が行われている。また、食育カルタを使って遊びながら食に対する理解を深める取組を行っている。さらに、冊子「スタート～旅立つキミへ～」に退所後活用できる基礎的な調理技術や調理方法を掲載していることから、a評価とした。</p>		
A-2-(3) 衣生活		
A ㉔	A-2-(3)-① 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
<p><コメント>一人ひとりにタンスがあり、衣類は十分に確保され、倉庫には衣装ケースがあり職員と一緒に衣替えを行っている。洗濯やアイロンがけ、補修等の衣類の清潔管理は行き届いている。しかしながら、TPOに合わせた服装ができるような、また子ども自らが気候や生活場面、汚れ等に応じて衣服を選択できるような衣習慣の習得への取組は十分であるとは言い難いため、b評価とした。</p>		
A-2-(4) 住生活		
A ㉕	A-2-(4)-① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
<p><コメント>施設見学の際、シルバー人材センターの方と施設の職員と一緒に庭の手入れを行っており、外観の整美に努めている様子が窺えた。また、食堂等の共有スペースも整理されており、自立支援の一環として、子どもが整理できないところをフォローするかたちで職員が関わっていることが確認できたため、a評価とした。</p>		
A ㉖	A-2-(4)-② 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
<p><コメント>居室は一人ひとりの居場所が確保できるよう、自他の領域の境界がはっきりとわかるような区切りがあり工夫されているが、十分とは言い難い。ヒアリングにて、このことを職員が今後の課題としてとらえていることが確認できたので、b評価とした。</p>		
A-2-(5) 健康と安全		
A ㉗	A-2-(5)-① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
<p><コメント>食事やおやつの前には手洗いをするように働きかけ、健康の保持や衛生管理についての理解が自然に促されている。また、幼児に向けては「手洗い歌」を一緒に歌いながら手洗いを実践する取組を行っていることから、a評価とした。</p>		
A ㉘	A-2-(5)-② 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
<p><コメント>定期的な健康診断を実施するとともに、平常の健康状態を観察する体制があり、子どもの健康管理に努めている。看護師を配置し、医療機関とも連携が取れており、適切に対応していることから、a評価とした。</p>		

A-2-(6) 性に関する教育		
A 29	A-2-(6)-① 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<p><コメント>カリキュラムを作成し、定期的に年齢別の勉強会を実施している。中高生については夜に座談会や茶話会形式で行い、スマートフォンを使用する時には、性的な加害・被害関係につながる危険性が潜んでいることに注意するよう、理解を深めている。低学年の子どもには人形劇やDVDといったツールの活用で勉強会が進められている。幼児には絵本等で、「良いタッチ、悪いタッチ」を具体的に教えていることから、a評価とした。</p>		
A-2-(7) 自己領域の確保		
A 30	A-2-(7)-① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b
<p><コメント>箸や歯磨きチューブは個人所有で対応がなされ、高学年以上の児童についてはシャンプーやリンスを子どもの希望に合わせて用意している。今後、個人所有物をさらに増やし、自己領域の確保を高める取組に期待し、b評価とした。</p>		
A 31	A-2-(7)-② 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
<p><コメント>一人ひとりにアルバムを用意し、行事ごとの写真を収集し整理に努めている。アルバムは子どもがいつでも見ることができ、担当職員と一緒に振り返る機会もある。しかし、写真担当を決めているが、アルバムの内容が職員によって差があることや、施設入所後の成長の記録にとどまっていること等、生い立ちの記録として整備されているとは言い難いことから、b評価とした。</p>		
A-2-(8) 行動上の問題及び問題状況への対応		
A 32	A-2-(8)-① 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
<p><コメント>ヒヤリハットの報告はあり、状況等の共有は行っているが、適切な援助技術を習得する研修の実施や、暴力等を受けた職員へのケアが十分なされているとは言い難いことから、b評価とした。</p>		
A 33	A-2-(8)-② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
<p><コメント>問題が発生する要因を考え、死角になる場所の把握や職員配置等について話し合い、予防に努めている。また、毎日のお参りの場で話題として取り上げ、人権に対する子どもの意識を育むよう支援している。問題が発生した場合も適切な対応ができるような体制が構築されていることが確認できたため、a評価とした。</p>		
A 34	A-2-(8)-③ 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引き取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	b
<p><コメント>ヒアリングから、地元警察署の生活安全課や児童相談所との連携は十分に取れていることが確認できた。しかし、強引な引き取りがあった場合の対応についてのマニュアルは策定されているものの、職員に周知・徹底されているとは言い難いと判断し、b評価とした。</p>		

A-2-(9) 心理的ケア		
A 35	A-2-(9)-① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<p><コメント>心理士を配置し、必要に応じて心理的ケアが実施されていることが心理療法記録と自立支援計画で確認できた。また、児童家庭支援センターの心理士も活用できる体制がある。ケースによっては心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。施設全体で心理的支援の目的が共有され、機能していると判断し、a評価とした。</p>		
A-2-(10) 学習・進学支援、進路支援等		
A 36	A-2-(10)-① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<p><コメント>年長児から中学生は公文学習の実施や、学習ボランティアの活用、SBI英会話教育支援プログラムによる英会話カルタや、英語公文の活用、高校受験のための通塾等の支援を行っている。施設として、中学生に限定しているが、21時~22時を学習する時間として確保し、全員で学習するという取組も行っている。このような学習環境の整備や、学習支援の多様な取組があることから、a評価とした。</p>		
A 37	A-2-(10)-② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
<p><コメント>ヒアリングにより、子どもの進路希望と可能性、能力を把握した上で自己決定ができるように進路選択の支援がなされている。また、奨学金制度を担当職員が調べ、奨学金に関する情報を収集整理し、一冊にまとめて活用していることが確認できたため、a評価とした。</p>		
A 38	A-2-(10)-③ 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p><コメント>職場体験実習（アルバイト）マニュアルが策定されている。子どものアルバイト先と施設との連携が確保され、アルバイトを通して社会体験をすることにより、社会のルールや仕組みが実感できるような支援が行われている。しかし、職場実習や職場体験、アルバイト先の数が少ないため、今後の新しい資源の活用や開拓に期待して、b評価とした。</p>		
A-2-(11) 施設と家族との信頼関係づくり		
A 39	A-2-(11)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<p><コメント>家庭支援専門相談員を軸として担当職員と連携をしながら、早期家庭復帰や親子関係の再構築等の支援を行っている。児童相談所と連携を取りながら家庭訪問も実施している。子どもに関係する学校や地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加を呼びかけている。その際に家族からの相談に応じる体制が取れていることから、a評価とした。</p>		

A-2-(12) 親子関係の再構築支援		
A⑩	A-2-(12)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p><コメント>家庭療法事業を実施し、親子関係の再構築に必要な家族への支援に積極的に取り組んでいる。また、保護者等との面談や苦情等があれば家庭支援専門相談員に相談する等の体制が構築されていることから、a評価とした。</p>		
A-2-(13) スーパービジョン体制		
A⑪	A-2-(13)-① スーパービジョンの体制を確立し、施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b
<p><コメント>職員へのヒアリングにより、研修は受けていないということであったが、基幹的職員による日常業務のスーパービジョンが支持的、教育的に機能していることが確認できた。しかし、管理職や基幹的職員が外部の専門家等によるスーパービジョンを受ける機会の確保や、キャリアアップの仕組みとして基幹的職員が位置づけられているとは言い難いため、b評価とした。</p>		